

京極読書新聞 <第43号>

発行日 平成25年 3月 1日(金)
京極町生涯学習センター湧学館

2012年度 出前図書館・読書会の一年

町内の小中学校へ毎月出向く「出前図書館」も今年度で4年目となりました。各学校の校風や規模に合わせてブックトークや読み聞かせを行ってきましたが、その活動の中からは、この「京極読書新聞」も生み出されてきています。4年前、なんとなく口が重かった京中生が今となっては信じられないくらい明朗に自分や読んだ本を語る「京中生にインタビュー」。京極小学校でも大幅に導入を始めた「ブックトーク」。その発祥の地、南京極小学校では、生徒全員と湧学館職員が対等に混じり合っただのブックトーク大会も試みられました。

同じく4年前にスタートした読書会活動「平家物語読書会」もついに「巻六」を迎えました。月2回ペースの読書会が4年間休むことなく続き、なおかつ、会員数が増加しているということに驚きます。後志の文学講座「京極文学館」も今年度最終回に京極町出身の作家・峯崎ひさみさん本人が参加されたりと嬉しいことが続きました。各読書会で使われたテキストは、年度末の「製本教室」で毎年美しい本に変身しますが、今年は特に、俱知安の作家・沼田流人の幻の書「血の呻き」の完全復刻版が登場します。製本技術に裏打ちされた読書というのは、おそらく京極町独特の文化でしょう。これからもこの町の個性をどんどん伸ばし、楽しい町にして行きたいと思います。(新谷保人)

一年を振り返って 南京極小学校 土屋 真由子(つちや:まゆこ)

南京極小学校の子どもたちは本が大好きです。しかも、今年度は合計214冊の新しい本が図書館に増え、子どもたちは色々な本を手に取りながら、「こんどはどんなお話に出会えるのかな?」と、毎日読書を楽しんでいます。

本が好きな子たちなので、楽しみな出前図書の日には給食後の片付け・歯みがきをテキパキと終え、図書室にまっしぐら。湧学館の方が毎回、様々なジャンルの本の内容を楽しく伝えてくださり、続きをすぐにでも読みたいくなるような素敵なブックトークを、目をキラキラさせて聞き入る子どもたち&大人たち。ブックトーク後、紹介してくれた本は、大人の私たちもついつい手にとってしまうほど。子どもたちも空いた時間に読み合っていて、とってもほほえましい光景です。

今年度の新しい取り組みとして、授業の一時間をとっての「ブックトーク」を実施させてもらえました。いつもよりじっくりと本を紹介してもらったあと、子どもたちが「いままでに読んだオススメの本」を友達と湧学館の方に紹介しました。緊張している子もいましたが、自分がおもしろいと感じた箇所を人に伝えようと言葉を選びながら紹介しようとしていました。回を重ねるごとに子ども達の成長を目にすることができます。子どもたちのブックトークは、これからも続けたい活動の1つです。

子どもたちが本に出会う機会を大切に、本をもっと近くに感じることができるような図書室作り・読書活動を子ども達と共に進めていきたいと思います。



◆2012年度 実施スケジュール(ブックトーク)

- 5/24(木) 「変身」・「たまご」の本
- 6/21(木) 「太陽」・「船」の本
- 7/19(木) 「ロンドン」・「身につけるもの」の本
- 9/20(木) 「りんご」・「絶滅動物」の本
- 10/19(木) 「ハロウィン」・「ぶどう」の本
南京生のブックトーク「私の好きな本」
- 11/22(木) 「ペンギン」・「冬」の本
- 12/20(木) 「みかん」・「巳」の本
- 2/21(木) 「犬」・「白」の本
- 3/14(木) [実施予定]



京極読書新聞は
毎月1日発行です。

一年を振り返って 京極小学校 明村 睦子(あけむら・むつこ)

出前図書館と言えば、毎月一回、木曜日の中休みと昼休みに、低学年・中学年・高学年の3ブロックに分けて、実施していただいていた。湧学館の方がそれぞれの発達段階に合わせた作品を選んでくださり、紙芝居や本の読み聞かせをしてくださっていました。どちらかと言えば、学校としては湧学館の方にお任せの受け身的な取り組みでした。

しかし、今年度はもう少し積極的な活動にしてみようと考え、従来通りの出前図書館の回数を減らし、ブックトークという形で各学級ごとに出前図書館を行ってもらうことにしました。各学級1～2回、学級の要望に応じて本を持ってきたりいただくことにしました。まずは、担任の先生方にブックトークを行っていただく時期を決めてもらいました。そして、その時期の学習内容や子どもたちの実態を湧学館の方に伝え、それに合わせて本を選んで持ってきていただきました。湧学館の方のお話も、持ってきていただいた本も、1つの学年で1時間たっぷり堪能できたため、一人一人がしっかりと本と向き合い、楽しく有意義な読書の時間を過ごすことができました。

学校側からはたくさんの要望を伝えたため、湧学館の方々には様々なご苦労をおかけしたことと思われます。毎回どの学年の要望にも快く応じてくださり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。お陰さまで、子どもたちにも先生方にも大好評でした。来年もぜひこのような形でお願いしたいという意見が多く聞かれました。

また、従来の出前図書館も2回と回数が減った分、お楽しみの要素が加わり、子どもたちの楽しみも増したようです。わくわくしながら図書室に集まってくる子どもたちを見ていると、こちらの形も続けていけたらと思います。

京極の子どもたちは、たくさんの本に囲まれ、大変よい読書環境にいます。これからも学校と湧学館と連携を取りながら、子どもたちが意欲的に読書活動を行っていきけるよう取り組んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。



◆2012年度 実施スケジュール(ブックトーク)

- 5/17(木) 「土の中から出てきたよ」
- 6/14(木) 「天気」の本(展示)
- 7/12(木) 「読書感想文の書き方」・「おばけ」の本
「小学3年生が活躍する本」
「戦争」・「夏休み」の本
「小学4年生が活躍する本」
- 10/18(木) 「宮沢賢治」の話
「小学6年生が活躍する本」
- 11/15(木) 「かっこいい読書感想文」
「小学1年生が活躍する本」
「小学2年生が活躍する本」
「リスとどんぐり」の本
- 12/13(木) 「1年間」の本(展示)
- 3/7(木) [実施予定]



▲製本教室2日め。(2013.2.23)
コデックス装「平家物語・巻五」がまず完成



▲京中職場体験。澤晶弘くん、高島欣也くんがつくった
展示「私たちのエネルギー問題」(2012.9.5～6)

今を伝えていくということ ～「平家物語読書会」発表より～

<京都市在住> 黒滝 千織(くろたき・ちおり)

一昨年(2011年)と同じ「クロタキ様ご案内」に導かれタクシーに乗車。今年は相席(?)で、峠の酔いも忘れる様なあつという間の京極町への道のり。新千歳空港では雨だった天気も段々と霽、霽、そして雪…と姿を変え、いつものセイコーマート前に着くと、もはや大雪。運転手の方と相席していた方が心配して傘を貸してくださる始末。私の心の中では、(村山先生は一体いつ来るのだ…)と少し恨み模様。なぜなら、前日京都に居た私は、永観堂で暢気に紅葉見物を楽しんでいたからです。秋の京都から一変、半コートを羽織っていても身震いする冬の京極に一人。とにかく寒い寒い始まりでした。

タクシーが居なくなってから、車の中からはよく見る事が出来なかった雪景色を傘下から見つめると、9月の京極町とはまた違った北海道の冬独特の寂しい風景が目に入り、少し地元を思いつく様な気分になったのを覚えています。

昨年は(2012年)NHK大河ドラマで「平清盛」が放送されるなど、京極町の「平家物語読書会」の方々、そして村山先生にとっては大きな一年だったのではないかと思います。それは私にとっても同様で、今まで以上に「平家物語」について、そして「平氏」について理解を深める一年となりました。大河ドラマのブームにより、関西各地の平家縁の地では様々な観光スポットや企画が目白押しで、京都でも本物の「平家納経」を見ることが出来ましたし、神社仏閣でも平家関係の展覧会や「平清盛像」など多数拝見することが出来ました。しかしながら今年は何と言っても「平清盛」が遷都した「福原」=兵庫県神戸市がメインです。5月のゴールデンウィークから8月の真夏までを使い、大学の先生にご一緒してもらいながら、神戸市中央区から須磨区を回り、発表に至りました。このことは、会の皆様がよくご存知かと思われます。

今年で四回目になった「平家物語読書会」での発表。この四回の発表のお陰で、大学の先生方や他大学の名誉教授の方と会話をする引き出しが増え、視野が広がってきたということを感じることが出来るようになりました。普段からとても仲良くしてくださっている大学の先生は、古代史が専門ですが、私が平家の発表を行っていることを知ってからは「平家の語り部としての教育」という観点からアプローチすると面白いのでは、と研究テーマを模索してくださったり、名誉教授の先生にいたっては、この「平家物語読書会」で発表をしている事を話したことから親しく接していただき、様々な本や平家に関わる研究をしている人物を紹介して下さいました。毎年のこの発表が、私の世界を大きく広げてくれたことは言うまでもありません。

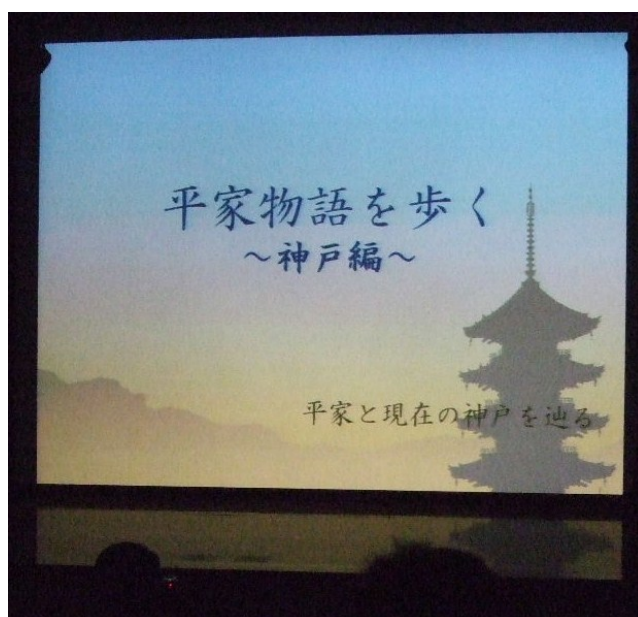
また、京極町の方々をはじめ、会の皆様、そして湧学館の皆様との出会いは私にとって非常に大きな財産になっていると感じております。

最近、京都の親しい方から、「教えるのではない、「伝える」のだ。」という話を聞きました。私も京都では「先生」として子どもたちに「教えている」という気持ちがあるのですが、「教える」のではなく、肩の力を抜いて「伝えていく」という姿勢が重要なのではないか、という言葉に、平家物語の琵琶法師を思い出させられました。北海道ではアイヌ民族のユーカラもそれにあたるとは思いますが、語ることで伝えられていった話が私たちや次の世代へと続いていく。この感動は言葉には出来ないものがあります。やはり、「語りも教育であり、伝えるということも教育」、また一つ、「平家物語読書会」から学んだ様な気がします。今年も皆さんに「伝える」ことが出来れば、私にとってまた新たな扉が開くチャンスになるのではないかと考え今年の京極(出来れば九月)に思いを馳せている今日この頃です。

2月14日 まもなく梅の花咲く京都より



▲「今年もやってきました！」4回目を迎え、絶好調の「黒滝レポート」(2012.11.27)



一年間を振り返る

<『平家物語』を読む会> 講師 村山 功一（むらやま・こういち）

早いもので本会も四年目が終わろうとしています。現在、巻六の後半を読んでいます。この間、会員の皆様の熱意と湧学館関係者の皆様の協力に支えられて、回を重ねることが出来ました。改めて、心から厚くお礼申し上げます。

今年度は思い出深い年になりました。大河ドラマ「平清盛」が放映されたからです。毎回の講座では、ドラマの清盛を俎上に乗せ大いに盛り上がりました。また、これを機に湧学館では多くの「平家」関連図書を購入してくれ、「『平家物語』コレクション」が一気に整いました。小中学生から一般まで十分楽しめるラインナップですので、ぜひご利用ください。一方で、諸般の事情から日程変更の多い一年でもありました。それにもかかわらず、皆様には快くご理解、ご協力をいただき、重ねてお礼申し上げる次第です。

恒例の“黒滝レポート”も今年度は11月27日、臨時日程での開催となりました。今回は、清盛の生涯の夢であった“福原の都”の“今”を歩いてのレポート。4回を数えて一段とレベルアップした内容でしたが、何よりも嬉しく、心強く感じたのは、彼女の成長ぶりはもちろん、彼女と交流のある大学の先生や専門家の方々から、私たちの会に対する激励の言葉をいただいたことでした。これに意を強くしつつ、多くの人々に支えられていることを忘れず、新年度に臨む所存です。会員の皆様、湧学館の皆様、一年間ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いいたします。（2月15日記）

年間進行状況（平成24年度）

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| ・4/6〔巻五〕 物怪之沙汰 | ・11/2 葵前 |
| ・4/20 早馬・朝敵揃 | ・11/16 小督 |
| ・5/11 咸陽宮 | *11/27 黒滝千織「清盛と神戸の今」
“映像トーク” |
| ・5/25 文覚荒行 | ・12/7 小督・廻文 |
| ・6/1 勸進帳 | ・12/21 飛脚到来 |
| ・6/15 文覚被流 | ・1/11 入道死去 |
| ・7/6 福原院宣 | ・1/29 “ |
| ・7/13 富士川 | ・2/1 築島・慈心房 |
| ・8/3 “ | ・2/15 慈心房・祇園女御 |
| ・8/17 “ 五節之沙汰 | ・3/1 祇園女御 |
| ・9/7 五節之沙汰・都還 | ・3/15 “ |
| ・9/21 奈良炎上 | *印は臨時開催 |
| ・10/5〔巻六〕 新院崩御 | |
| ・10/18 紅葉 | |

平家物語読書会...

「栄枯盛衰」・「諸行無常」

大河ドラマの影響で昨今は歴史ブームの火がついては消え、ついでに消え...を繰り返しています。そんな中、北海道の地で「平家物語」を読んでいらっしゃるの。とても素晴らしい人生の営みではありませんか。

私は80になりますが、今でも現役で市民講座にて漢文の読書会をしています。年齢層は60代過ぎから70代後半まで様々です。私の専門は中国史で、特に白楽天を好みます。平家物語の中にも白楽天の詩が出てきますね。皆さんが平家物語を読むことを通じて、時代背景や当時の貴族の暮らし、そして漢詩などにも興味をもたれば、この先の人生も非常に豊かになるのではないのでしょうか。人生は今から！と思い、京都での日々と、奈良での漢詩読書会の日々を楽しみ暮らしています！皆さんも北海道で素晴らしい日々を送ってください！！

▲黒滝さんを介して寄せられたメッセージに一同感激ひとしおでした。（2012.11.27）

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

